

発注状況の一元管理と Web帳票出力による発注業務の効率化

システムソリューション・サービスを展開するキューブシステムは、パートナー企業に対する発注業務の効率化を目指して業務の見直しを行い、Web発注業務システムを構築した。自社開発のワークフローシステムとWeb帳票ソリューションWebReportCafeを組み合わせ、発注書の発行申請から決裁・発行までの発注情報を一元管理し、発注書のPDF出力およびメール送信に至る一連の発注業務のWebシステム化と情報の共有化を行い、発注業務の標準化・効率化を実現した。

発注状況の一元管理 発注業務の効率化を図る

キューブシステムの社名は、Customer（顧客第一をモットーに）、Brain（高度な知力・知見を發揮して）、Emotional Mind（感動をもたらすソリューションを）の頭文字「CUBE」に由来する。同社は、1972年の創業以来、30年余りにわたって業務ノウハウとITへの知見を蓄積し、顧客指向のシステムソリューション・サービスの提供を続けている。システムソリューション・サービスは、顧客の情報化サイクルに応じて、「プ

ロフェッショナル・サービス」、「システムインテグレーション・サービス」、「システムアウトソーシング・サービス」の3つのサービスラインから構成されている。

同社ではこれらのサービスを提供するために、常時多数のプロジェクトを進行し、それに伴い多くのパートナー企業に対する発注業務が発生している。従来、この発注業務は紙の書類によって行っていたため、発注書発行の申請から決裁、そして発注書送付に至るまで、実際に処理がどこまで進んでいるのかなど、発注の実態を把握することは困難だっ

た。また、発注状況を複数のグループが別個に管理していたため、情報の共有化もなされていなかった。

同社は、発注状況を一元管理し情報の共有化・標準化を図るため、2004年2月に業務の見直しに着手。発注業務における紙媒体の利用を極力削減し、作業の効率化を推進するために、システム化の検討を開始した。このことは、同年4月に予定されていた下請法（下請代金支払遅延等防止法）の施行に備えるという意味もあった。

コスト、セキュリティ、サーバ機能等を評価し、WebReportCafeを選択

同社では、約1ヶ月かけて発注業務の運用方法の検討を行った。例えば、これまで1種類だった発注書を発注ステータス（先行発注・確定・確定変更など）にあわせて複数パターンを用意するなど、運用方法を確定し3月からシステム化の検討

を始めた。

同社には自社開発のワークフローシステムがあり、他業務ですでに使用していた。発注業務のシステム化にあたっては、そのワークフローシステムを使用し、帳票作成機能を付加することにした。

帳票システムの検討にあたり、その要件として、「①PDF出力ができる帳票システムであること」、「②セキュリティ対策として、電子証明書対応のPDFであること」、「③出力したPDF帳票の電子メール送信機能があること」、さらに「④システムに組み込むのではなく、発行指示だけで帳票を作成できるサーバ機能をもっていること」があげられた。

いくつかの帳票システムを比較検討し、最終的にWebReportCafeの採用を決定した。同社は別の社内システムの中で他の帳票システムを使用していたが、価格が高いという問題があり、使い勝手の面でもWebReportCafeの方が優れていると判断した。WebReportCafeは、帳票フォーマットの作成が容易であり、安価で帳票サーバを独立して構築できるため、複数のシステムからの利用が可能であることなどが評価された。

管理・企画部 経営企画グループ 小林 弘幸氏は、「当社の社内システムは基本的にWebシステムで構成しており帳票機能をシステムに組み込む形式ではなく、自社開発のワークフローシステムから利用できるサーバ版のWebReportCafeがベストでした。コストや使い勝手の良さのほか、発注書という性格上、偽造対策として電子証明書付のPDFを発行でき

るというセキュリティ機能、パートナー企業にPDFを電子メールで送ることができるメール送信機能も決め手になりました。クライアントとして.NETにもJavaアプリケーションにも対応できるというマルチアーキテクチャ対応も評価しました」と語っている。

WebReportCafe導入後、 ほぼ1ヶ月で開発完了

2004年5月にWebReportCafeを導入した後、デザインツール（Web ReportCafe Designer）を用いて帳票設計を行い、ほぼ1ヶ月という短期間で開発を完了することができた。新システムを発注業務の現場に展開するにあたって、実際に発注書申請を行うプロジェクト責任者、発注書のPDF出力指示を行う部門（管理・企画部、ビジネス推進部）に対してユーザー教育を行い、同年7月に本番運用を開始した。

新システムにより、発注作業の 効率化と情報共有を実現

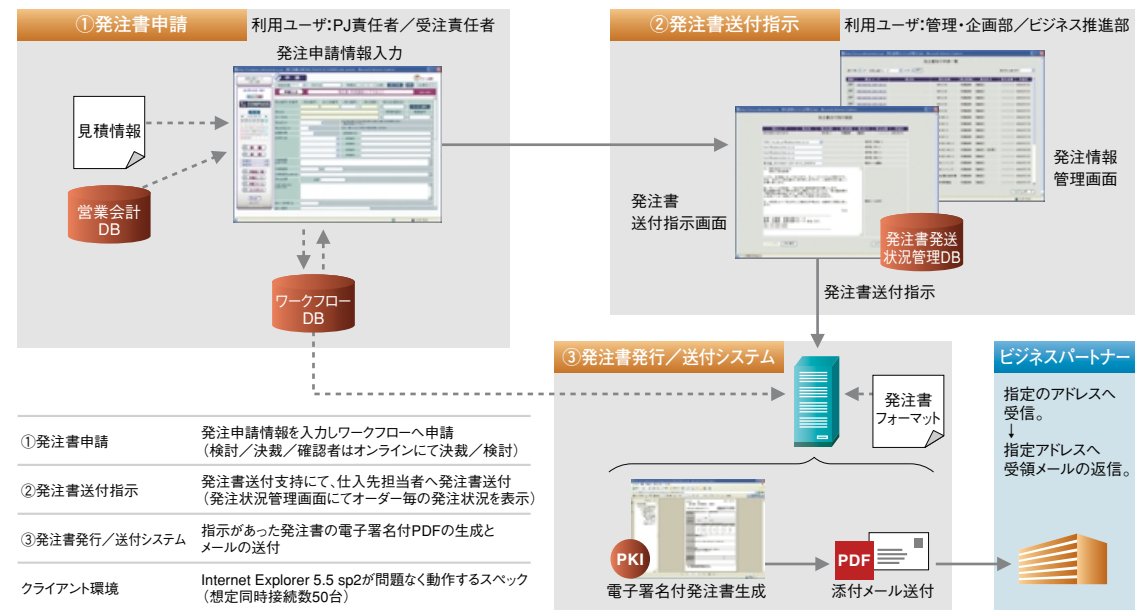
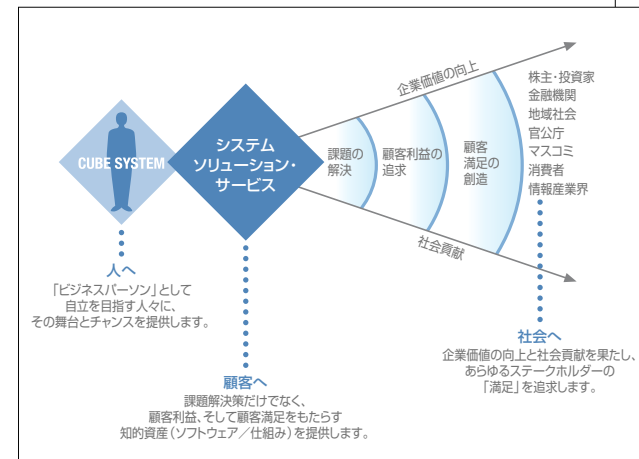
新発注業務システムは、運用開始以来安定的に稼働し、業務の効率化と情報共有に貢献している。新システムの効果について小林氏は、「いつ、どれだけ発注があるかを即座に



見ることができるようになり、ステータスも正確に把握できるようになりました。当社では客先に常駐している社員も多く、紙の書類だったときは情報が伝わるのに時間がかかるなどの問題がありました。新システムでは、リモートアクセスによってワークフローシステムに入り、社外からも発注書システムを利用することが可能であり、全社的な情報共有化を実現できまし



株式会社キューブシステム
管理・企画部
経営企画グループ
小林 弘幸氏



たと述べている。

WebReportCafeについて小林氏は、「本番稼働以来、何の問題もなく安定して稼働しています。帳票作成機能をシステムに組み込むのではなく、サーバ機能によって既存システムと粗結合で使用できますので、Web ReportCafeは汎用性が高く使いやすいシステムと感じています」と高く評価し、「発注業務だけで使うのはもったいない。ほかのシステムにも活用していきたい」とも語る。

WebReportCafeの利便性を実感した同社は、本格的な統合型Web帳票ソリューションの実現に向けて検討を進めている。

CUBE SYSTEM

◎会社概要
社名:株式会社キューブシステム
設立:1972年
本社:東京都品川区東五反田1-2-33 白雉子(しらぎじ)ビル
資本金:3億9,920万円
従業員数:326名(平成17年4月現在)
事業内容:流通、通信、金融、公共、製造分野の業務アプリケーションの設計・構築や、IT技術を活かした情報基盤構築等のシステムインテグレーション事業
URL: <http://www.cubesystem.co.jp/>